

# 円安企業に最高益

## 上場1323社推計 資源高も影響

国内企業が円安などを背景に利益をめぐらしている。上場企業全体の2022年3月期決算の推計によると、最終的なもうけを示す純利益は前年比35・6%増の33・5兆円となり、過去最高を更新する見通しだ。今後はもうけを設備投資や従業員の賃上げにまわし、経済の好循環につなげられるかが焦点となる。

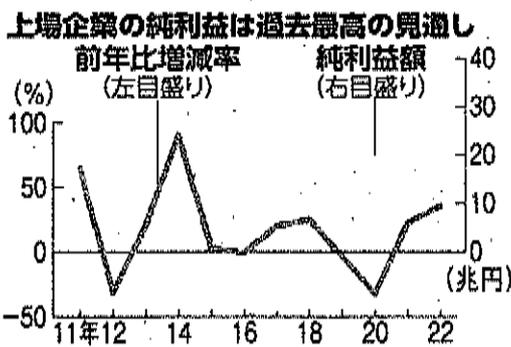
▼3面＝苦しい家計、8面＝ソフトバンクG巨額赤字、9面＝増える自社株買い

株式市場の区分けが変わる前の東証1部に上場する1323社（金融を除く）について、SMBC日興証券が集計した。11日までに決算発表した577社（全体の43・6%）の結果と、未発表企業の業績予想などをもとに試算した。

売上高は前年比7・9%増の500・4兆円、本業の110円前後で推移していた円相場は22年3月には1ドル120円まで下落し

た。製品の輸出し、海外で事業展開する企業にとつては追い風だ。ウクライナ危機などによる資源価格の高騰も、大手商社など一部に恩恵をもたらしている。

純利益を業種別に見ると、自動車を含む輸送用機器は前年比47・2%、電気機器は24・9%増加。一方



SMBC日興証券調べ。各年3月期。東証1部上場金融業を除く。22年は未公表分を推計値

費は伸び悩んでおり小売りや外食といった内需型の業種も厳しい。

好調な業績はこれからも続きそう。決算発表済み企業の23年3月期の業績予想などを集計したところ、売上高は前年比で7・9%、営業利益は11・8%、純利益は5・7%の増加を見込む。

課題も浮かび上がっている。ウクライナ情勢の悪化や円安で輸入する原材料が上がり、企業や家計の負担が増している。国内外でコロナ禍が深刻になれば、回復にブレーキがかかる恐れもある。

企業では内部留保を積み上げ、自社株買いや配当で株主に還元するところが増えつつ。新しい工場の建設や社員の給料を上げる動きは鈍い。企業のもうけが個人にまわり消費を活性化することが、景気の先行きのカギを握りそう。

(山本恭介)

純利益が過去最高となった主な企業

自動車	
トヨタ自動車	2兆8501 (26.9)
通信	
NTT	1兆1810 (28.9)
海運	
日本郵船	1兆91 (約7.2倍)
商船三井	7088 (約7.9倍)
商社	
三井物産	9375 (約5.4倍)
三井物産	9147 (約2.7倍)
鉄鋼	
日本製鉄	6373(前年比赤字)
電機	
日立製作所	5834 (16.3)
半導体・電子部品	
東京エレクトロン	4370 (79.9)
村田製作所	3141 (32.5)
石油元売り	
出光興産	2794 (約3倍)
コスモエネルギーHD	1388 (61.7)
空調	
ダイキン工業	2177 (39.3)
ゲーム	
バンダイナムコHD	927 (89.7)

2022年3月期、前年比増減率(%)、トヨタ自動車は過去最高、NTTは過去最高、日立製作所は過去最高、村田製作所は過去最高、出光興産は過去最高、コスモエネルギーHDは過去最高、ダイキン工業は過去最高、バンダイナムコHDは過去最高

# 好業績でも 苦しい家計

## 恩恵届かず 物価高・賃上げ不十分

2022年3月期決算では製造業を中心に、かつてない好業績になることが相次いでいる。円安が業績を押し上げており、上場企業全体でも純利益は過去最高になりそう。ただ、多くの従業員も消費者にとって恩恵はまだまだ感じにくい。

## 円安 輸出企業に追い風

「急速な市場拡大に対応した顧客と生産で需要増加を背景に取り込み、期を追うことに売り上げが拡大した」

半導体製造装置大手の東京エレクトロンの市川好一取締役は12日の決算会見でこう述べた。22年3月期は売上高、純利益ともに過去最高だった。半導体の世界的な需要の高まりで製造装置の販売が大きく伸びた。同業のアドバンテクトも売上高と純利益が過去最高を更新した。

D)の植松孝之専務は12日の会見で補助金がなければ買い控えがもたらさず、期を追うことになり、ありがたいと感じたいところだ。出光興産も純利益が前年の約3倍で過去最高だった。D)の植松孝之専務は12日の会見で補助金がなければ買い控えがもたらさず、期を追うことになり、ありがたいと感じたいところだ。出光興産も純利益が前年の約3倍で過去最高だった。

「コンテナ運賃がコロナ禍前の数倍になった海運業界も絶好調だ。純利益が業界初の1兆円を越えた日本郵船の丸山徹執行役員は「まったく予想していなかったレベルだ」と表現する。円安でもかかるのが輸出に強い企業だ。トヨタ自動車は前年比で6100億円、三井物産は538億円、それぞれ円安が業績利益を押し上げた。

世界的に需要が高まる中で、国内の企業も好業績を受けている。内閣府は2月の景気動向指数で基調判断を「足踏み」から「改善」に引き上げた。それでも個人消費はさえず、賃上げが上向いたという実感は乏しい。物価が上がるなか賃上げが不十分で、家計が苦しくなっていることが大きな要因だ。

「急激な市場拡大に対応した顧客と生産で需要増加を背景に取り込み、期を追うことに売り上げが拡大した」

「コンテナ運賃がコロナ禍前の数倍になった海運業界も絶好調だ。純利益が業界初の1兆円を越えた日本郵船の丸山徹執行役員は「まったく予想していなかったレベルだ」と表現する。円安でもかかるのが輸出に強い企業だ。トヨタ自動車は前年比で6100億円、三井物産は538億円、それぞれ円安が業績利益を押し上げた。

「急激な市場拡大に対応した顧客と生産で需要増加を背景に取り込み、期を追うことに売り上げが拡大した」

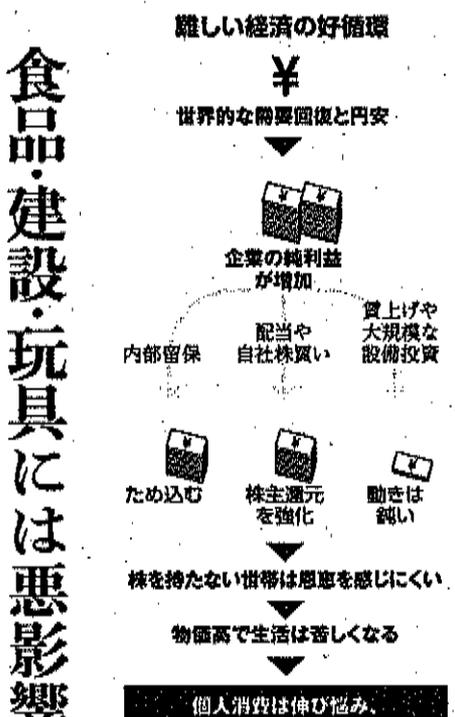
「急激な市場拡大に対応した顧客と生産で需要増加を背景に取り込み、期を追うことに売り上げが拡大した」

「急激な市場拡大に対応した顧客と生産で需要増加を背景に取り込み、期を追うことに売り上げが拡大した」

「急激な市場拡大に対応した顧客と生産で需要増加を背景に取り込み、期を追うことに売り上げが拡大した」

「急激な市場拡大に対応した顧客と生産で需要増加を背景に取り込み、期を追うことに売り上げが拡大した」

「急激な市場拡大に対応した顧客と生産で需要増加を背景に取り込み、期を追うことに売り上げが拡大した」



「急激な市場拡大に対応した顧客と生産で需要増加を背景に取り込み、期を追うことに売り上げが拡大した」

「急激な市場拡大に対応した顧客と生産で需要増加を背景に取り込み、期を追うことに売り上げが拡大した」

「急激な市場拡大に対応した顧客と生産で需要増加を背景に取り込み、期を追うことに売り上げが拡大した」